
転生×ハンター

七色

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

転生×ハンター

【NZコード】

N0845X

【作者名】

七色

【あらすじ】

HUNTER×HUNTERの世界に転生させられた主人公。神からの理不尽な命令を受けるも、強くなることを決意する。主人公と、次々と現れる転生者達がおくるハートフルボックストーリー。

プロローグ（前書き）

誤字・脱字は「」容赦ください。

プロローグ

一体どうなつてこる。

俺が気づいた時はここにいた。この何もない場所に。

ここはどこだ？

そうやって困惑していると、目の前に突然老人が現れた。

「お主は死んだじゃよ」

老人は唐突にそんなことを俺に伝えた。

「俺が死んだ…？俺が死んだというならここは死後の世界か何かか？アンタは神様？」

「似たようなものじゃ」

確かに、俺は死んだんだと思つとしつづくる。なら、これから天国か地獄に行くのだろうか？

「いや、本来はそうじゃが、お主にはやつてもらいたいことがある

思考を読まれたと驚いていると、神はたたみかけてきた。

「お主にはHUNTER×HUNTERの世界に転生してもらいたい。まあ、それに似た平行世界だが」

「そこでお主には3つの命令を遂行してもうつ。ああ、お主の他にも大勢転生者はいるが、皆3つずつ命令を受けておる。それぞれと協力するもよし、排斥するもよし」

「後、転生特典は通常よりも遙かに念能力に目覚めやすくなるのみ。他には何もないぞ」

「ああ、ちなみに拒否権はない。これは神々の実験兼娛樂だからだ。本来ならば原作通りに進む世界が、我々の介入でどのように変化するかを観察し、楽しむためのな」

「命令を遂行できなかつた場合は、その場で死んでもらい、地獄の最下層に行つてもらうことになる。まあ、命令以外のこととは好きに生きて構わないし、3つの命令が終わつた後は自由だ」

えらく傲慢だな。さすが神様。しかし、この神様やたらとハイテンションだ。そんなに転生させるのが楽しみなのか。呆気にとられる前に、逆に落ち着いてきたぞ。聞けることは全部聞いとこ。

「3つの命令とは何があるんですか？」

「お主の命令はちょっと特別でな。原作組に関わつても、関わらんでも良い。原作通りに進めても良いし、原作破壊してもいい」

?よくわからないな…

「コンセプトは人間頑張ればどこまでいけるか、確かめようだ！」

は？

なんだその良い笑顔は…

「それではお主に3つの命令を伝える。？原作開始までに天空鬪技場にてフロアマスターになる？キメラアント編終了までにグリードアイランドをクリアする？王・護衛軍4匹中3匹と戦闘する」

は？

……はあ！？

「まあ、少し難易度が高いから、他の転生者より早く生まれるよつにする。」

そんな問題じやねえ！

「ちよっと待て！…おーー爺！…」

爺は良い笑顔から一トヤ一トヤとこせりじこ笑みに変わり、本来に楽しそうにしているやがる！

「それでは行つて」と…。

だから、待てって言ってんだろ！

クソ……意識が……

誕生（前書き）

まだまだ原作前です。

主人公の名前は響きで決めました。

誕生

クソ……苦しい…

なんだよ、これ。転生させたんじゃなかつたのか…

苦しい苦しい苦しい苦しい苦しい苦しい苦しい
苦しい苦しい苦しいクルシイクルシイクルシイクルシイク
ルシイクルシイクルシイクルシイクルシイクルシイクルシイ
クルシイクルシイクルシイクルシイクルシイクルシイクルシイ

光が…

泣き声が聞こえる…

これは俺か…?

俺が生まれたのか?

なんかかなり辛く、体に力が入らない。ていうか体から力が抜けていく。赤ん坊ってのはこんなもんなのか?

周りの音、自分の泣き声を聞きながら、ぼんやり考えていたら、ふと気づいた。

体から『何か』が抜けていっている。自分の中にある『何か』が。

全身を包んでいる『何か』が急速に消費されているのが。

アレ?

これオーラじゃね?

念能力の覚醒じゃね?

……やつべえ!! オーラって生命エネルギーだろ! 大人でも出し切つたらぶつ倒れるのに、生まれたばかりの赤ん坊がオーラ出し切つたらどうなるんだよ! つーか死ぬ! たぶん死ぬ! まず死ぬ!

なんで生まれたばかりで覚醒するんだよ! 普通は瞑想なんかして覚

醒するんだろうが！！念能力に目覚めやすくなるつても限度があるだろ！！！生まれた衝撃なの？転生して世界渡ったせいなの？死を体験したせいなの？バカだらあのジジイ！！！

ヤバい、ヤバい、ヤバい！！早くどうにかしなければ、死ねる。何をすれば、どうすればいいんだっけ。ああ、えーっと。

クソ、パニクつてあたまが回らねえ！

…………… そうだ、『纏』！！

体の周りにあるオーラを纏うイメージを、全身を廻るイメージを、落ち着いて、リラックスして……おい、俺しつかりしろ。出来なきや死ぬぞ。

廻れ、廻れ、廻れ、廻れ、纏え、纏え、纏え、纏え！

意識が霞んできた…

もっとと集中しなきゃマズいのに…

……クソ、死にたくねえなあ

いつの間にか眠つてたみたいだ。

つーか生きてる?俺生きてるの?また死んだとかじゃない?大丈夫?

…体の感覚はある。オーラも感じられる。息もしてる。周りの音も
聞き取れる。

大丈夫っぽいな。

ああ、滅茶苦茶びびつた。マジ死ぬかと思つたわ。しかし、転生して初めて死を身近に感じたのが出産直後つて早すぎだろ。他の転生者、死人でるんじゃねえか、これ…。

余裕が出てきたので周りを探ろうとするが、目も開いてない赤ん坊では無理があると断念。本当に転生したか確かめたかつたんだけどなあ。まあ、無理してもしかたがないし、ジジイとの一方的な会話でも整理しようかな。

…整理するまでもないな。要は今、俺がいる「『はUNTER × HUNTERの世界で、俺は3つやらなければいけない』」ことがある。

命令だか試練だか知らんが、全部に共通する」とは、強くなきゃ話にならんってことだな。

特に3つ目。何だよ王・護衛軍4匹中3匹と戦闘つて、最低でもゴンやキルア並に強くないと無理だろ。でも、出来なきゃ死ぬだけだしな…。

とりあえず頑張ろ。

まず、纏に慣れなきゃな。今も解けかけてるし。

ヘイ！俺はリズ＝アナスタシア！今、母親に抱かれているの。

：おい、女みたいな名前と思った奴いないよな？ちなみに俺は思った。普通に目が開くようになって、速攻確かめたからな。ちゃんと今生も男でした。俺つ娘じやねえぞ。

ようやく1歳になつたんだが、やれしたこと、わかつたことは少ない。

念についてはまだ纏と絶しか出来ていない。練？一回試したよ。速攻ぶつ倒れたけど。他にやれることがないから、燃のほうを重点的にやつてる。瞑想って大事だよね。念つて心が重要だし。ひたすら強くなること、生き残ることを目標に瞑想している。

わかつたことはさうに少なく、今がいつかも、ここが何処の大陸な

のかもわからない。おかげで何の計画も立てれない始末。

わかつたことといえば、自分の名前と家族構成が俺と母（幸薄そな病弱な美人）といふことのみで、後の親族は誇りのために死んだと母が俺に語つたくらい。

俺の父や親族は軍人か何かだったんだろうか？

それと今住んでいる場所のことぐらいは何とかわかる。

たまに銃声や断末魔が聞こえるステキなスラム街です 倘ん家はスラム街の端の方にあり、普通の町に近いためまだ治安はマシとは言つても、かなりヤバい。

母の体調がガチでマズそつだし、早く成長してスラム街から出て行きたい。

俺の家は母が病弱なため働けず、どうやって生活しているのかを考

おまけ

えていたが、母が本を片手に俺の側に来た。

「リズ、一緒に本を見ましょ」1歳過ぎの子供に何をみせるのかと。ハンター文字はまだ読めねえぞ。絵本ぐらいで勘弁してくれ。

「さあ、お膝の上に乗りましょ」

母は俺を膝の上に乗せて、本を開いた。

…これはアルバムだな。

「これがソフィアママですよー」

「え、今よりも断然きれいだな。幸薄そつだけビ。

「隣にいるのがアンティークパパよ。これよ、これがパパですよー」

そんなに指をささんでもと思つ俺はかなりの親不孝。ちなみに父は精悍な顔つきをしたスカーフュイスです。

「こいつにいるのがルチアーノお祖父さんとエツィオ叔父さん」
ずいぶんと恐い面構えですな。なかなか個性的な親族ですね。

「こいつがみんなとパパの友達の集合写真ね」

…どう見てもイタリアンなマフィアです。本当にありがとうございました。

現状把握（前書き）

話はあまり進んでいません。

早く天空闘技場にいかせたい…

現状把握

俺は4歳になつた。

これまでにやれたことは相変わらず少ない。念は精々練と凝ができるようになったくらいで、後は纏と絶をひたすら繰り返しただけ。

まあ、そのおかげで纏は寝ても維持できるし、絶も完璧にできるようになった。家で絶の練習をしていると、母が俺を探し回り、外に出で行こうとする度どなくあるくらいには完璧。

…生き残る為には、強くならなきゃいかんのに、一番得意なのが絶つてのは俺もどうかと思つ。

だけど俺、絶は簡単にできたんだよね。気配を消せるだけじゃなく、疲労回復にも役立つから重宝している。練の修行が終わつた後とかに。

練といえば、俺は3歳になつてから修行し始めたんだけど、できるようになるまで一週間かかつた。体内で練つたオーラを留めるのが難しくてなあ。

超天才の「ゴンキルコンビ」が1日つーか半日、かなり才能のあるズシが何週間も掛かつたはず。

それ考えると、俺の才能はズシ以上ゴンキル未満か。「ゴンキルに及

ばなくとも十分天才と言えるな。時間はあるし、主人公を抜くのも夢じゃねえな。

そう時間はあるんだよ。ハンター文字を習得して（基本50音と対応してるから意外と簡単だった）、色々と調べてみたら、俺が生まれたのが1985年2月だった。原作開始であるハンター試験は2000年頭のはず。

つまり俺が15歳になる直前にハンター試験は始まる。後、11年くらいの時間はある。この期間でどれだけ強くなれるかで、生き残れるか、死ぬかが決まる。

そして、俺が生まれ、今生きている、この場所がどこか分かつた。地図で言うと、左上のアフリカっぽい形をした大陸。もつと分かりやすく言つならば、パドキア共和国、つまりキルアの実家がある大陸。

そう、わかるだろ？

ここには何よりも大事な…

『天空闘技場』があるんだよ！――！

しかも、俺の住んでいる国に！

結構離れているけど、それでも違う国、違う大陸だった場合を考えると、かなり助かる。

これを偶然だとは思わない。

さすがにじご都合主義に過ぎる。クソ神がなんかやつたんだろう。俺の一つ目の命令が『？原作開始までに天空闘技場にてフロアマスターになる』だからな。違う大陸に生まれて、原作までに天空闘技場にたどり着けない場合は目も当てられない。

本当に出来なかつたら、死ぬかは分からんが、試すのはリスク一発ぎるし、強くなつて損は無いだろう。

まつ、とつあえずは鍛えて天空闘技場に行かなきゃどうしようもないな。

取り敢えず、体作りを始めようかね。筋トレとストレッチでもして。

おまけ

オーラを体に纏う…

『纏』

オーラを消す…

『絶』

オーラを大量に生み出す…

『練』！！

オーラを田に集中！

『凝』！！

ふう、結構良い感じだな。一つ一つが滑らかに出来るようになつて、上達してるのが自分でもわかる。

しかし…

なんか忘れてるよひつな…

なんだつけ…

…つーん

あ、『発』やつてね…

スラム街での日々（前書き）

主人公がどんな奴かの説明回。

単純バカで深く物事を考えようとして、深く考えず結論を出すよう
なアホ。

悩んでもすぐに開き直る、そんな奴。

系統は当然アレ。

スラム街での日々

今生きている世界は現実なのか、実は寝たきりになつて いる俺の夢なのではないか？それとも、俺は一次元の世界に入り込んでいて、全てが作り物の偽りの世界なのではないか？

…なんて柄にもない」と考えてみた。

いやー、いきなりHUNTER×HUNTERの世界に転生して、あまりにも違和感なく生きているので、後々迷つて挫折やら、後悔をしないように、今のうちに自分の考えをまとめようかと。

そして、俺は俺なりに考えてみた結論は…

そんな細けえ」とせびりもいこんだよ………！

いやだつてさ、實際その時にならないと答えでねえじやん！

胡蝶の夢だか、まな板の上の鯉だか、マトリックスだか知らんが、
考えたつてどうしようもないんだよ。

自分が現実つて思えば現実だし、本物つて思えば本物なんだよ！

おつと熱くなつちまつた。

しかし、他の転生者で迷つてる奴とかいるんだろうか？本当に他の
転生者がいるか知らんが。

まあ、他は他だ。

俺は好きに生きよつ。

そんなこんなで俺は6歳になりました。

俺はスラム街を歩き、家に帰りながら思い出す。

スラムデビューして早一年半。

修行メニューに筋トレと発の修行を加えて半年たった頃、このまま引きこもりやるのはマズいと外に出ようと決心したが、最初は大変だった。

俺がガキ過ぎて、ストリートチルドレンや孤児、スラムで暮らしている子供達に相手にされない。根気よく話をすると、食うことにも困る生活してて、俺を相手してる暇がないと。

俺の家も、蓄えに余裕は無いし、そろそろ収入が無いとマズいので、何としてでも稼ぎが欲しかったから必死にアピールした。幸い俺は体鍛えてたし、念も使えるから、4歳半とは思えない身体能力してた。

何とか、取り分は少ないが仕事に連れて行ってもらひよるよつになつた。

なつたが…

仕事ついで、『HUNTER×HUNTER』の世界で漁りや出稼いだと思つてたよ。

まさか盗みや置き引きが主な収入源とは…

前世での平和な日本の暮らししかからは考えられんな。

…いや、前世の世界でもこんな暮らしをしていくのが何はいただらけ。

ましてや、この命が軽い『HUNTER×HUNTER』の世界。

俺が甘かつただけだな。

まあ、前世での甘い倫理感なんて今はもうないに決まっている。

盗みが失敗して逃げ遅れた友達がリンチされて死んだ。

証拠もなく警察に捕まつた奴らがそのまま帰つて来なかつた。

ラリつた親に意味もなく殺された奴がいた。

マフィアの物に手を出して連れて行かれたグループがいた。

迷い込んできた観光客をみんなで的にして殺した。

吐いたり、悪夢を見たりもしたが、次第に慣れた。

むしろ将来的に役立つんじゃねえの?とか思つちまつよつになつた。

まったくスラムは地獄だぜい。

だけど将来原作で、さらなる地獄を見るはめになるよな。ハンター試験だけでもどんだけ人死んでんだよ。

そんなことを考えながら、角を曲がると人にぶつかりそうになつた。

「すいません」

取り敢えず凝をする。最近は何かあるたびに凝をする癖をつけてる。

しかし、この「デブ」誰だっけ？

「てめえど！」に田を付けてやがるー。」

…ああ、こじら辺りのボス（笑）を気取つてるガキ大将か。

名前は…なんだっけ？丸いからマリオでいいな。

「じめんなさい」

14、5になる奴が6歳に絡むなよ。

「なんだその田つきは…舐めてんのか…ああ…？」

唾を飛ばしそうに喰ながり、拳を振り上げるマリオ（仮）。

…これ避けたらダメだよなあ。鬱陶しい事になるのは勘弁。

拳を避けるより、面倒を避けたい。

左頬に衝撃。その勢いに任せて倒れ込んでおく。

「調子こいてんじゃねーぞ！クソガキが！」

そう叫びながら、俺を蹴たぐり回す。

「これに懲りたら一度と舐めた態度をとるなー。」

マリオはそう言い、最後に俺の腹を蹴り上げ、俺に唾を吐き捨てる

去つていった。

纏をしているからダメージはない。

……ダメージはない。

ダメージはないが……

ムカつくな、あのテープ。

覚えてるよ、絶対後でやり返してやるーー！

恩には恩で、仇には10倍返しが、俺のモットーだ！

その時を楽しみにしてやがれ。

しかし、よくよく考えると、問題ない事に気がついた。
最初は才能や資質の問題かと焦りに焦った。

俺のオーラが少ないので。
応用技に進むのが難しいくらい。

家に着いたので、さつきの事は忘れて、念の修行を始める。
とは言つても、基礎である四大行と凝、後は燃しかやつていらない。
これにはちゃんとした理由がある。

オーラとはつまり生命エネルギー。

生命エネルギー＝体力や生命力だと俺は考えたわけだ。

6歳の俺の体力や生命力が高いわけがない。

だから当然、オーラも少ない。

なので俺は体を鍛えながら、年を重ねて自然とオーラが増えるのを待つことにした。

間違っていても、顯在オーラも潜在オーラも訓練で増やせると原作で言っていたし、基礎を大事にする事は後々プラスになるだろう。

俺、強化系だったしな。

ただ、念は心や精神状態にも深く影響されるから（燃で念が向上するし）、体と心の両方（+血筋）が関係していると考える。

つまらざりにこう事がとこうと……

NARUTOのチャクラと似たようなものじゃねーの?

あれは身体エネルギーと精神エネルギーを混ぜ合わせたものだったはずだし。

似てると思うんだよなあ……。

血筋が何よりも大事ならマジでじょうもねえ……。

オーラ量に血筋は関係なくとも、体だけではなく心も未熟つーことになっちまつ。

燃の割合増やそうかな。

母は相変わらずベッドで寝ている

。

おまけ

鏡の前に立つ。

鏡には黒髪茶田の子供が写っている。

。。

ポーズをとつてみる。
ヒドいマヌケが[彌]つてゐる。

。。

ガンとばしてみる。

…田つも悪ー！柄悪う！—！

こいつや絡まれるわ。氣をつけよつ。

バイバイスラム（前書き）

私は生みの親より育ての親派。

バイバイスラム

6歳の冬、年末の出来事だった。

スラムでいつもどおり盜みをやり、仲間で稼ぎを分け合つて、その後将来の夢や他愛のない話をしていた。

その後もつい時間なので解散し、みんなそれぞれの家に帰つて行つた。

俺も家に帰ることしよう。

今日の夕食は何にしようか、なんてこと考えながら家路をたどる。

家に着き、ドアを開け、違和感を感じた。

「ただいまー」

返事が無い。

寝てるのか?

何だ?この違和感は……

母を見る。

そして違和感の正体に気づく。

家に入った時から自分以外のオーラを感じしない。

母のオーラを感じない。

凝をしているのに母のオーラが見えない。

念が使えない母はオーラを垂れ流しにしているはずなのに。

母はまるで寝ているよう死んでいた。

『つこに』と言ひづきか、『やつと』と言ひづきか。母は死んでいた。

悲しくはない。

正直どうじてもこの人を『母』だとは思えなかつたからだ。

俺にとつての『父』や『母』は前世の両親だ。この人はこの世界で俺を生んで育てただけだと思つちまう。

ただ生活するために一緒に暮らしていただけ。俺からは必要最低限の事しか喋らず、この人から話しかけられても、おざなりに対応していた。

特に盗みをし始めて、金を稼げるようになつて、鬱陶しく感じじるよ

うになつた。煩わしく思つよくなつた。

邪魔とやえ考えた。

所詮仮初めの『母』。死んだところで何も感じない。

なーんて思つてたはずなんだけどなあー。

なんだよ、この喪失感……。

思ひここんでいただけで、実際は情が移つてたつてことかよ……。

あー、クソ……。自分が悲しんでいるかどうかもわからねえ。

本当に何やつてんだか……。

嫌いなら嫌いで、甘えずひとつと家出つやよかつたんだよ。

好きなら好きで、もつと甘えて、一緒に遊び、病氣を治す念でも作りやよかつたんだよ。

べからりもせか、じつちつかず。

本当にただ中途半端。

俺は何がしたかったんだろうな。

：ああ、ただ生き残りたかったのか。

死にたくなかつたのか。

そのために『母』を踏みぬいてみつとして、中途半端に終わったのか。

本当に下りねえー。

俺はベッドに近づき『母』の頬に触れる。穏やかな顔だ。病氣で苦しかつたはずなのに。

俺は母の泣き言を聞いたことがない。

ただ俺を愛してくれていた。俺は氣味の悪い子供だったらしい。

俺は最後に母といつ、何を話したかもよく覚えていない。

なんつー親不孝者だ、と思わず笑う。

もう、親孝行は一度とできない。

俺が生きる事が最大の親孝行だ、なんて言えないし、言いたくな

い。

俺が中途半端なせいじことになつた。

誰も、自分すら救われない。

もう、こんな中途半端なことせはしなこと心に誓おひ。

誰よりも自分のため。

こんな俺でも最後に母の墓を作るべからずやるよな。

あれから年を越し、誕生日を迎え、春が近づいてきた。

いつもより騒がしい街を歩きながら考える。

今日俺はこのスラム街を出る。

家の物は全て処分した。

持っていく物は着替えと水筒、後は金だけだ。

金はあれから貯めた盗みの分以外にも臨時収入があったため、十分に余裕がある。

今は世話になつた人達に挨拶して回つてることだ。

ま、次で最後の人だ。先輩だし引き締めて行こう。

ほどなくして目的の場所にたどり着いた。

「よつリズ。出て行くんだってな」

先輩は相変わらず二口一口している。

名前は知らない、ただ先輩と呼べと言われた。

先輩は俺がスラムに出たばかりの頃、俺にスラムでのいろはを教えてくれた人だ。母が死んだ時も黙つて俺を手伝ってくれた。本当に頭が上がらない。

「はい。用意も済んでるので、後は出発するだけです」

「そうか。早いもんだねー。将来出て行くとはいつも言つてたが、やつぱり天空闘技場？」

先輩はそつと微笑みと笑う。

「いえ、まずは山に行こつかと」

「は？山？なんだって山なんかに？」

いやー、そりゃやつぱり。

「修行と言えば山でしゅう。」

俺は真面目にそつねつよ。山、ここのまことに、やじじやまち、おひおひ修行も出来やしない。天空闘技場に行く前にやるひとと、こへりでもある。

つーか、今天空闘技場に行つても200階まで上がる気がしない。

「まつまつまーかー！お前ならビリ行つてもつまへせられるだらう
ひだるがへへへ..

俺はまじめに思われていてんだだ……

「まつ、リズ。気をつけて行つてー。」

「ほー。先輩もお元氣で」

あーあ、早く強くなりてえな。

おまけ

「そう言えば街が騒がしいですが何かあつたんですか？」

「お前知らなかつたのか？ チェザーレがマフィアの金に手を出したつて街中大騒ぎだ。あそこのグループは見せしめにみんな殺られてよ」

「チエザーレ……？ ……ああマリオですか」

「？ マリオ？ まあいい。盗まれた金をマフィアが躍起になつて探していでな、大半がチエザーレの家で見つかつたつて話さ」

「馬鹿ですね。こつなるつてわかりそなうものですが」

「まあな。まあ血意識過剰な上にバカな奴だつたし、わかつてなかつたのかもな」

「最後まで物騒な街です」

「まつたくな」

.....本当に物騒な街だねえ。

.....ねえ？

山村（前書き）

ぐだぐだな繋ぎ回

山村

あれからスラム街を出て、一番近くで一般人でも入れる山に着いた。
麓に村があるので挨拶をしたのだが：

「ダメダメー子供が一人で山にはいるなんて、なに考えてんだ」

…やっぱりダメ？ 常識的に考えりや、そつだよなー。挨拶したのは失敗だつたか。しかし、修行場がないと困る。

「えーと、猟師さん？俺、結構強いですよ。なんなら今から試してもらつても」

「強かるがガキはガキだ！ だいたい、どうやって山で暮らす気なんだ？ お前、獲物捕まえて、それを捌くことができんのか？」

…出来ないな。

しかし、どうしたもんか。

「……お前、親は死んだした？」

「…………、正直に言つたか。ダメもとで聞こ聞えよ。」

「両親は……死にました。生きる為に強くならなきゃいけないんです。
どうか山に入る許可を貰わせて……」

「OKだしてくれよー。ここでのことの事を教えてくれるなら、
儲けもんだな。」

獵師さんは何やら困惑した様子。やじうつな。

「…………せうか。村に置いてやる。せうで強くなればいいだらうへんし」

そうきたかー。

「しかし、それでは迷宮になるのではってお金も余り持つていませ

んし」

「ガキがそんな事気にすんな。俺の家に置いてやる」

「…………マジですか。滅茶苦茶有り難いんですけど。」

遠慮なんかしてられねえな。

「それでは……お願い出来ますか？」

「ねー、お願ひされてやるー。」

そう言い、獵師さんは快活に笑つた。

カンツさん（獵師さんの名前。あの後わかつた）の家に住み着いた訳だが、最初は山に連れて行つてくれなかつた。

正直な話、山でのノウハウを教えてくれるのを期待していただけに、
チヨツ・ピリ落胆した。

まあ、家事の手伝いをしながら、体を鍛えて、認めてもらえるのを待つことにした訳よ。

しかし、この世界の人間はスペックおかしよな。7歳の子供が腕立

て200回×3セットとか出来るんだぜ？

カンツさんも苦笑いだつたけど。

念に關しては堅と硬の練習も始めたんだが、硬とか習得に一月かかったわ。堅も最初1分保たなかつたし。

日が沈み始めるまで体を鍛え、最後に力尽きるまで堅をする。

そんな感じで鍛え続けて3ヶ月。

いい加減山に入りたいが、カンツさんが認めてくれなし、山で生きる技術がない。ならばせめて、山と一緒に連れて行ってもらえないかと聞いても渋い表情。

なのでパフォーマンスをした。

念能力全開でな！！

オーラを足に集め、震むような速度で動き、硬で岩を割る。

この時点で、大人達は田を点にして驚いていた。

さらに絶を使い気配を断ち、連れて行つても足を引っ張らないとアピール。

周りの大人にこれなら大丈夫だろうと言われ、カンヅさんもしぶしぶ山に連れて行くことを認めた。

そこからはカンヅさんに着いて山に入り、狩りの仕方、獲物の捌き方、植物についての知識などを学んだ。

動物を殺すのには抵抗なかつたし、それを食つのも問題なかつた。

問題があつたのは獲物を捌くことだつた。
まず捌き方がわからない。

捌き方を教えてもらつて、実際に動物を捌くと、内蔵を引きずり出し、皮を剥ぐ、感触、匂い、音に吐きそうになつた。

「ゴメン、嘘。見栄張つた。」

普通に吐いた。

オボロロロロロローって。

生き物を殺すのならともかく、解体するのは全然慣れなかつた。何度も繰り返してようやく吐かず出来るよつになつたが、我慢してるだけで気持ち悪いのは変わらない。

一時するとカソシさんは俺にも狩りをやらせてくれるよつになつたが、武器は銃や弓を選ばずに大振りのナイフを選んだ。

やつぱり武器ついつたら刃物だる。つーか銃や弓は性に合わんし、天空闘技場のことを考えたら、近接武器の方がいいだらう、たぶん。

カソシさんには呆れられたが…。

小動物の狩りに慣れた頃、俺は敢えて猪を狙つことにした。自分がどれくらい出来るのか確かめたかつたから。

しかしダメダメだった…。

気配を断ち、音を殺し、忍びよるのは出来たんだが、ナイフを急所に突き立てるのが出来ない。変な所に刺して振り回され、結局拳で猪を地面に沈めた。

似たようなこと計5回。

カンツさんに戦力を変えると怒られた。

しかし「や銃は使う気が起きない。

ならばと後一回だけやらせてくれと泣き落として、今度は最初から素手で猪にリベンジ。

結果、纏のみで瞬殺。

俺にはナイフの才能がないつーか、武器を持って戦う才能がないことがわかった。

……いいもん。強化系だから素手でも大丈夫だもん。

でも刃物使いたかったなあ。

……話がそれた。

それからは素手で狩りをするようになり、ナイフは捌く時にしか使わなくなつた。

まあ、そんな感じで狩りを勉強しながら生活し、半年が過ぎた。

「カンシツさん、俺そろそろ山で籠もひつかと思つんですが

「リズ、お前はバカか！今から冬を迎えるんだぞー！～ビーツやつて冬を過ごす氣だ？」

あ、考えてなかつた……。

けどなあ、そろそろ修行を本格化させなことマズいんだよねー。天空闘技場には早く行きたいし。だけど、無理して山に籠もつて死んだらシヤレにもならんしなあ。

「だいたいお前なんで山に籠もつたいんだ？鍛えるな！」
「来るだらつ〜」

「一人でやつたことがあるんですよ

「やつたい」とおへそつや何だ？」

それはだな……

「秘密です」

「「」」

「イツテニー！」

拳骨落とされた。そんなに怒んなくともいいじゃん……。

「つたく、バカガキが。とりあえず、まだ教ってる事は山ほどあるんだ。冬の間覚悟しておけよ」

「……はーー」

「…でも仕方ないし、その間鍛えまくるしかないか。

オマケ

俺の堅の持続時間はまだ30分ほど。

原作でゴンは、通常時の堅1時間が戦闘時の堅10分に相当するみたいな事を言っていた。

つまり単純に考えると、俺は戦闘時に堅を5分しか維持できないことになる。

まだ、実戦で使えるレベルじゃない。早急にどうにかしたいといふだ。堅の持続時間は潜在オーラ量に比例するだらうから、一番集中して鍛えなきやいけないしな。

……アレ? そう言えばゴンキル、一月で1時間から3時間まで堅の持続時間伸ばしてなかつたっけ?

……アレ? 俺、半年かけて持続時間30分?

うん、年齢の差のせいだろ？ きっとそれだよ、そういう違ひはない。

…………そりだよな？

修行（前書き）

色々とほつちやけた回。

そしてわかる人にはわかる。

修行

今、俺は山奥の小屋にいる。

冬を越えて、俺が8歳の誕生日を迎えてから、カンツさんは山籠もりをするのを認めてくれた。条件は猟師の休憩所である山中にある小屋に住むこと。たまに様子を見にくるらしい。子供が一人で山に籠もるのはせっぱり心配なのだろう。

そう、俺はよひやく山籠もりをすることが出来るよひになつたワケだ。

とは言つても新しい環境なので、まずは狩りを優先し、ちゃんと生活が出来る田舎がつくまでは本格化な修行はできない。

近くにある水場を確認し、獲物がいそうな場所の下調べ、山菜がある所をチェック、危険生物の縄張りの調査などをする。これらが終わったら狩りを始め、開いた時間に修行をやる。

新しい生活に慣れる頃には1ヶ月経っていた。

今日から本格的な修行を開始する。

ふふふ。わざわざ山に籠もつて何がしたかったと言つと、アレだよ。アレ。

『ゴンキルがグリードアイランドでやつてた『穴掘り』がやりたかつたんだよ。

まあ、正確には『道作り』をするんだが。俺は山に穴を掘つていいく技術ないしな。

体作り、オーラ総量と念の技術アップ、獣に対する周りの警戒力アップ。一石二鳥ならぬ一石三鳥だ。

カンツさんにも「水場まで道が険しいんで、道を切り開いていいですか?」と伝えたら、やれるもんならやってみると笑つて道具をくられた。

冗談と思つてゐるのか。たいした事はしないと思つてゐるのか。どつちにせよ言質は取つた。自然破壊し過ぎないように修行を開始しよう。

湧き水が出る場所まで約2キロ。小高い丘もあれば、窪地もある。勿論、木々が生い茂つてゐる。

まずは丘まで木を切り倒すかな。切つた木は小屋の近くにまとめて置いておいて、溜まつたら切り分けて村まで持つて行くか。切り株は…シャベルに『周』をして掘り出せばいいな。

しかし、毎日やるものもバランスが悪いな。ローテーション組むか。
狩り・道作り・念の修行…の繰り返しでいいかな。問題があつたら
その時変えればいいだろ？。

さて、それじゃあ…始めよつかー！

～3月～

そろそろ木が溜まってきたな…。村まで持つて行くか。

…重い。もう2時間はかかるてる。荷物が無きや、1時間もから
んのに…。

あつ…。

ガラガラー、ゴロゴロン…

木がばらけた…。クソ！

（4月）

コンツ！コンツ！

どうした！こんなに切れ目を入れられて！今にも倒れそうじゃねえ
か！ここか！ここがいいのか！ほら！ほら！もう我慢できないだろ
！フハハハハ！！！

……むむ？なんかいるな。

昼下がりの情事（じつじ）（木と木こり、禁断の愛ver）を邪魔する
とは良い度胸だ！

……狼か。

3、5、6、9…結構いるな。この間やられた仲間の敵討ちのつも
りか？

ククク…。馬鹿め。獲物がそっちから来てくれるとはな……！

ヒヤツハーー！新鮮な肉だー！

（5月）

『流』は問題ねえな。努力すれば上達するのがわかる。

『隠』はどうすればいいんだろう？あれかな？勘でやるしかないのかな？

見えずづらくなーれー。薄くなーれー。

……こんなんで大丈夫かな？出来るようになる気がしないんだが。

『田』？アア、ソシナノアリマシタネ。

（6月）

ふうー。ようやく丘までたどり着いたな。
まずは丘を丸裸にしてと。その後、切り崩すか。丘なんて消滅させてやるぜ！

作業も慣れてきたし、ペースを上げていくか。頑張つて年内に終わらせたいからな。

土は……どうしようか。

……蓬地に捨てるか。

／7月／

イテエ…。

さすがに熊っぽい生き物と念無しで、正面からぞ突きあいは無謀だったか…。

しかし、勝てたな。凄まじい成長率だ。熊っぽい生物を撲殺する8歳児。やつぱりこの世界の人間のスペックはおかしいな。空気にはプロテインでも混じってんのか。

あれ？茂みで何か動いている。

……子供か。

こちらを威嚇にしてるな。……当たり前か。俺がこの子の親を殺したのだから。

このままじゃ食えて死ぬだけだな。

俺のせいだし、責任を持つて

美味しく頂こう。

（8月）

カンヅセんにやつ過ぎだと怒られた。

山を向だと思つてゐるんだつて。

修行場と答へたら殴られた。

平謝りして、何とか許してもらえた。

キツの良ことひびきで止めると言ふえた。

…最後までやるのが一番キリが良いな。

～9月～

最近、成長が凄い。

背も伸びたし、堅も1時間半を超えた。流もかなり速くできるようになつてゐる。

成長期つてやつか?…いや早すぎるな。

なら才能が開花したつてやつだな!

なんかショボいけど。

え！？隠？円？

何のことかわからないなあ。

～10月～

村に木材と毛皮を持っていったら、カンツさんがいつも通り日用品をくれた後、本を渡してきた。

格闘技の本が3冊、狩りやスカウト、トラッキングに関する本が2冊。

いつも毛皮持つて来てるから、そのお礼らしい。

強くなるために頑張れってや。

カンツさん。マジいい人。

（11月）

祝・丘・消・滅！！！

何とか年内に終わった。寒空の下、滅茶苦茶頑張った甲斐があったな。

びつせなら、湧き水までの道も一気に終わらせるか。食料はストックあるし、そもそも獲物が少ないから、狩りの時間を減らせるし。
さあラストスパートだ！！！

（12月）

長かった…。

しかし…今日で…全て終わりだ…！…

いやあー。達成感がハンパねえ。

だいぶ鍛えたし、やって良かった！

セヒ、これからどうしようかな？

とつあえず年末年始くらいにはカンシセラと過ごすかね。

ふむ。これからどうするか迷うな…。

いくつか選択肢を用意するなら

?そのまま山に籠もり、基礎を固める。

?天空闘技場に行く。

?別の危険な山に籠もり、魔獣なんかと殺し合いでをする

といった所か。

俺的に？はないな。そうするくらいだったら、天空闘技場で対人戦の経験を積みたい。そもそも、俺みたいな子供を危険な場所に入れてくれんだろう。犯罪犯してまでやりたいワケじゃないしな。

なら？か？だな。どっちにするかなー。うーん。

……せっかくカンジさんに本をもらつたし、鍛える為に？にするか。

系統別の修行もやつてないし、格闘技の修行もやつとかないと天空闘技場でキツイだろうしな。

じゃあ、また山籠もりするぞ！－

体作りではなく格闘技の修行を始めた。

日々、雨だらうと晴れだらうと修行し続ける。

木に毛皮を何重にも巻きつけ、力任せではなく、本に載つてゐるような動きで、動作をひとつひとつ確認しながら、丁寧に打つ。蹴る。突く。

それを朝早く起き、ストレッチと念の基礎をやつた後に、ひたすら日が沈むまでやる。

日が沈んだら、夕食を取り、系統別の修行をやつた後、力尽きるまで堅と流をやる。そして寝る。

念の修行の日は初めに基礎である四大行をして、堅と流の練習、最後に系統別の修行をする。

系統別修行は1日1種類、強・変・強・放・強…のローテーションでやる。

狩りの日は、感覚で獲物を追うんじゃなく、本に載つてゐるよつこしつかり動物が残した痕跡を見つけ、獲物を追い詰めていく。

空いた時間は燃の修行に当てるか、気晴らしに散策でもしたりする。

こんな修行の日々を送つてゐるが、ぶっちゃけビスケがゴンキルに

やつていた修行のパクリだ。

なんでこんな事覚えているかと言つと。燃の修行をする時、これらのことや強くなる為に必要な事を思い返しているからだ。

つか原作の重要な事くらいなら、命が懸かつてんだから覚えてるさ。むしろ忘れるとか、どんなだけ危機感がないんだって話だ。

村に初めて来た時、カンツせんに紙とペン貰つて、時系列書いたしな。勿論日本語で。

たぶんキメラアント編に入るまではだいたい合つてると思ひ。キメラアント編は時系列がよくわからん。王とコムギが再会するまでしか、俺生きてなかつたし。

……………あくしょう。

続きが気になるじゃねえか。もつ回りの世界に帰れる見込みはないのに。…今更帰る気もしないが。

…と話が逸れた。

まあ、格闘技と念の修行をやつてる訳だが、こつなると考へる事がある。

発についてだ。

だが俺は強化系。発が無くとも、基本を極めればそれが武器になる。

しかしありぱり自分だけの必殺技。念能力は欲しい。

……どうするかなあ。念能力を作るにしても何を強化するか思いつかない。

武器を強化する…………駄目だ。銃、弓なんかは柄じゃない。刃物は心惹かれるが、ナイフ・鉈は才能が感じられない。剣や槍は習得する時間も無ければ現物もない。

身体を強化する…………一体身体の何を？

感覚を強化？普段似たような事はやってるし、戦闘系の発が欲しい。

ならフインクスみたいに制約を決めて、攻撃力アップ？いや駄目だな。パクリなのは全然構わないけど、心惹かれない。

念能力に大事なのは、自分に合っているという事。

なら刃物を使えるようにする？才能を念能力でカバーすれば刃物を武器にする事ができるようになる。

……無いな。それが出来るようにするには制約がいるだろうし、その問題をクリアしても武器が上手く使えるようになるだけ。作るだけ無駄になる。

なら纏うオーラを刃に変える…………悪くはないけど、それは変化系の能力だ。強化系の俺がやつてどうする。

出来れば強化系を中心で、変化、放出をサポート使うような能力。そして、自分に合った能力。

…………駄目だ。思いつかない。

しゃーねえ。発は後回しにするか。

そもそも自分に合っていると感じて、系統に合つ能力が思いつかない。

心惹かれるのが、才能がない刃物だけってんじや話にならんな。

ん？

刃物の才能がない？

だけど刃物に惹かれる？

俺のバトルスタイルは今のとこ素手。

そして強化系？

いやある。条件に合う能力がある。

パクリだが確かにある。

しかし、弱いか。これじゃ念能力と言つより、ただの技術・流派。

制約をつければ? だがどんな? 弱い制約じゃ意味がない。

……いや元ネタを考えれば、制約になるものがある。

しかし、それでも制約は弱い…。

……ガチガチに制約で固めるか? 誓約で命も懸ければ強い念能力になるか?

…… いける。これなら戦闘に使って、かつ自分自身の嗜好、系統に合ひ――――

完成するのはまだまだ先だが、制約と誓約は今から適用するか？

…… 少し煮詰めてから適用しよう。早く適用した方が強くなるような気がする。

よし。格闘技の訓練を少し追加しよう。指先の強化訓練や手刀・足刀の練習でいいかな。

そうと決まつたら燃を、瞑想を始めよう！

……自分を一本の刀に見立てる。

俺は一本の刀だ。

そうして1年の月日が過ぎた。

おまけ

「おうリズ！ ようやく下りてきたな。」

「お久しぶりです」

「本当に久しぶりだな。大きくなりやがつて！」

「修行はとりあえず終えて、そろそろ天空闘技場に行こうかと」

「おー行ぐのか。数日待つてな。俺が連れて行つてやるぞ」

「本当ですか？いつも申し訳ありません」

「だからガキが気にすんなつて言つてんだる。それにしても本当にデカくなつたな。ちょっと測つてみるか。待つてな」

「メジャーで測るんですか？」

「だいたいいいんだよ。えーとこれちょっと踏んでひ。あー……
……身長一七一センチ！」

……一七一い！？

やべえ、前世の身長ともう変わらんぞ。

身長一七一センチ！ボク10歳！！！

せひめの天空闘技場（前書き）

今日は話が短いです。

戦闘中にアレコノと能力発動条件を満たすのは面倒くさい。

ならば、普段から条件を満たすような能力にすれば良じやない。

そして、失敗する。

そんなお話。

シシコリ! も手繕りかこお願いします。

はじめての天空闘技場

ここが天空闘技場……。

あれから、カソシさんに送つてもらいこじまで来たのだが、なかなか感慨深いな。

ようやく始まるって感じだ。

お？ 受付、俺の番か。

何々…。名前、生年月日、血液型、格闘技歴、etc. . .

格闘技歴は…素直に1年でいいな。別に早く上に行きたい訳じゃないし。

200階に上がつても、負けるよつたら意味が無い。しつかり鍛えて挑戦しなきゃな。

……つーかさ。俺、単純な数値で強さを見た場合、この1年の修行でむしろ弱体化してるんだよね。

瞑想の果てに念能力を手に入れるとは思わんかったわ…。

しかも操作系能力。制約と誓約の為だけに存在する能力。メモリの

無駄遣いってレベルじゃねえ。

やけになつて制約と誓約、全部決めちまつたぜ。

そのおかげで、戦闘用の発は未完成な上に制約と誓約のせいで使えず、弱体化の能力だけが効果を發揮してゐる。

まあ、制約と誓約が厳しければ厳しいほど能力は強くなるんだけども。

天空闘技場が終わつてからすれば良かつたＺＥ。まったく俺つたらおつちよこちよいなんだから

笑えてくるよ。

HA HA HA

……笑えよ。

後悔なんて、あるわけない。

無い。いつたら無い。

さて、氣を取り直して天空闘技場だ。

今、リングに立っているが、相手は見るからにマッチャヨ。身長は
…あっちの方が高いかな？

まあ、相手がどんなだろうが、力任せではなく、丁寧に戦つていいく
つもりだ。なるべく長く戦いたいから纏はするけど。

念能力者だった場合は……ガチでやるか。いい経験になるだろう。

そんな風に考え事をしていると、マッチャヨから話しかけられた。

「おこ……そんなに睨んでも負けてはやれんだ」

…………素だよ。ボケ。

絶対Kの勝ちにしてやるー。

ようやく審判の説明も終わった。

よひな、武器無し、それ以外は何でもOK、一ヶ月もあるよ。最初だからガンバ。八百長ダメ絶対つことだな。

「それでは試合開始！」

おっと始まつたな。

突っ込んで来て、パンチを繰り出すマッチョ。

それを手で捌き、避けられるものは避ける。蹴りを後ろに跳んでかわす。無理なものは防ぐ。

…………案外いけるな。ちゃんと見えるし、避けられる。

「おこおこ、避けるてるだけじゃ勝てないぜ」

ム力！

だったらやつてやるひじかねえか！

棒立ちになつた俺を右で殴りかかるマッチョ。

それを右腕で下側から田を描くようにして、右に逸ります。

同時に相手の左側に踏み込む。

そして体勢が崩れたマッチョの腹に右膝をぶち込む！

崩れ落ちたまま動かないマッチョ。

「試合終了！」

審判は即座に腕を交差させ、試合を終わらせた。

やつぱり思ったより動ける。この調子なら早く上に行けるかもしないな。

「君は50階に行きなさい」

さて、今日はもう一試合あるのかな？

終わったら念の修行だな。

おまけ

（山籠もり中の話）

俺は一本の刀だ。

……やっぱり発の修行用に刀が欲しいな。

天空闘技場に行つて金稼いだら、速効買おう。

しかし、刀ねえ……。

刀は所詮道具だからなあ。

元ネタ的に考へても道具だし。使い手がいてなんぼだよな。

本来の順序は逆だけど、刀を使う才能の無さも、刀が刀を使う不自然さを思えば納得できるし。

あ、ティンヒーた。

……いやいや！ ティンヒーひやマズい！

……あれ？ どうかかった？ もう能力発動してる？

「つめーん……。

……どうしたよ。ついでこれ何系の能力？

自身の才能の無さを強化するから強化系…………だったらしいな。

普通に自身を制限、操作しているから操作系だよなあ。

何ちゅうめモリの無駄遣い。

……はあ。やつちまつたもんは仕方ないか。

ついでだから、開発中のアレの制約と誓約も決めちまおう。まあ、今作った能力が制約みたいなもんだけど。

……これを足して、条件を厳しくしてと。こっちも弄れば。ああ、契約はフェアでいけばもつと強くなるかな。命も懸ければいいな。

……よし…できた…！

ちょっと厳しそうかな?いや、これくらいじゃないと護衛軍は無理だろ。大丈夫、イケる、大丈夫さ。

さて、修行の続きをしようつと。

「リズ』アナスタシア（強化系）』

『血刀の呪い【ヤスリ】』

効果

? 武器を使用すると身体能力、五感及びバランス感覚、念能力が下方修正される

・武器ではない物でも、武器として使用する場合は同様である（包丁やハサミや車など）

・武器であっても武器として使用しなければ、この限りではない（ナイフで調理など）

? 「主」がない場合、顯在オーラを本来の半分に制限する

? 「主」がない場合、この能力以外の具体的な能力の使用を禁止する

?『刀語』の内容をいつでも、全て思い出せるようになる

制約と誓約

?自分自身にしか効果がない

?ON・OFFの切り替えはできない

?除念した、された場合は命を落とす

備考

刀を振り上げればすっぽ抜け、振り下げれば自分の足を切る。銃を撃てば腕の関節全てを挫き、狙った場所に当たらない。武器を手に持つて走れば何も無い所でずつゝける。

絶をしている時に武器を持ち戦闘に臨むと、能力が強制発動し、絶は解ける。他人の念能力により、強制絶にされると能力は発動しない。

本人も気づいていないが、下記の念能力とこの能力はセットであり、盗まれる場合もセットで盗まる。

『?・?・?【?・?・?】』

効果

?・?・?

?・?・?

?・?・?

制約と誓約

?『主』がいない場合、使用ができない。

?『主』と契約するに当たって、5つの条件をクリアしなければならない

a ・?・?

b ・?・?

c ・?・?

d ・?・?

e
.
?
?

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0845x/>

転生×ハンター

2011年10月10日14時50分発行